

## E—6 町家における住生活の変容 —部屋の使い方について—

奈良女大家政

扇田 信

足達富士夫

○吉原 崇恵

勘田加津代

1. 住戸内の生活は、社会発展の歴史の中での家庭の占める位置によって変化している。すなわち、住宅に要求される機能が住戸内の生活であるが、それは、社会生活の変化の中で考える必要がある。住戸内の生活と社会生活の変化の間にある法則性を明らかにすることは、現在及び将来の住生活像を創るために必要になってくる。江戸時代の庶民住宅として、又、明治以後も伝統をうけついでいた町家は、奈良県にも多くある。これらの古い住宅は、現在の家庭生活にとって適当なものであろうか。昔の住宅と現在の生活の間にある矛盾をみることによって住生活の面の変化と、その社会背景を明らかにしたい。今回は、部屋の使い方の面から考察する。

2. 1968・10、奈良県橿原市今井町に残る近世の町屋において、住戸の平面プラン、ヒヤリングによる部屋の使い方、住要求のアンケート調査、採集による結果である。

3. 1) かつての生業の場として大きな位置を占めていた土間の役割が少なくなった。土間部分の改善が多く、板張りの台所にした例が多い。設備部分の要求が多い。職住分離が要求される労務形態になっていった背景がある。

2) 私的な空間と公的な空間や施設を求めている。又私的な空間の充実のためにも公的な施設が必要とされていく。